

事例1 遊びや学びのプロセス(5歳児)「氷づくり」

実際の活動では①②③④が一体的に行われたり、順序が変わったりすることがあります。

別紙

幼児期の終わりまでに育てほしい姿(10の姿)

【思考力の芽生え】【自然とのかかわり・生命尊重】

この遊びの中で大切にしたいポイント
○本物の氷に存分に触れて遊ぶ中で、こどもたちの「やってみたい」「もっと〇〇したい」という気持ちを引き出し、氷への興味・関心をさらに高めていく。
○「氷をつくってみたい」というこどもたちから生まれた思いを大切に、自分なりに考えて選んだ道具や方法で繰り返し試す楽しさや、満足いくまでやってみようとする姿。

① 思いや願いをもつ

氷を見つけたよ！
見て！見て！ここにもあった！
・冬の朝の偶然の出会いに感動し、保育者や友達に伝えようとする姿を受け止め共感する。



② 活動や体験をする

触ってみよう！私にも触らせて！
冷たいね！おもしろい！
・氷に触れながら、友達と一緒に不思議さやおもしろさを感じている姿を見守る。
・保育者も一緒に氷の感触を楽しみながら、こどものつぶやきや反応を受け止め、氷への関心が高まっていくようにする。



④ 伝え合う・振り返る

太陽が当たっているからきっと氷はできてないだろうな…
寒くなりそうだから、準備しておこう！
こっちは薄くて、こっちは分厚いのはどうしてだろう？
・試したことの結果を予想したり、五感で感じたりしながら遊ぶ姿を見守る。
・図鑑や絵本、友達や保護者などいろいろな人から得た情報を共有する場を設けるなどして、考えを巡らせて遊ぶ楽しさを味わえるようにする。

④ 伝え合う・振り返る

〇〇にも氷があったよ！
今日はこんなに大きいのを見つけたよ！
…あれ、なくなった！…どうしてだろう…？
・繰り返し氷で遊ぶ中で、時間の経過とともに変化する様子に気付いたり、「どうしてだろう」と自分なりに考えたりする経験の積み重ねを大切にする。
・こどもの発見やつぶやきを丁寧に受け止め、驚きや疑問に感じたことなどを互いに伝え合う場を設ける。

③ 感じる・考える

氷ってキラキラしてきれいだな！
どうして氷ができたのかな？
どこに氷があったの？
・氷の美しさや不思議さをじっくりと味わえるように、氷に触れて遊ぶ時間を十分確保する。
・氷のあった場所をみんなで確かめたり、疑問に感じたことを一緒に考えたりする。
・絵本や図鑑を用意し、いろいろな氷があることを知ったり、自分たちで不思議に思ったことを調べたりして、興味関心を高められるようにする。



③ 感じる・考える

日陰に隠していたらできた！
太陽が当たっているけど、できているよ？
小さい入れ物に薄い氷ができたよ！大きいのは、まだ水のまんまだ…。
冷たい入れ物だったけど氷になってない…。
・それぞれの違いを比べながら、氷ができたりできなかったりする不思議さを感じ、いろいろな方法を繰り返し試せるように、一緒に必要な材料や道具を用意する。
・氷ができた喜びや、思うようにできなかった悔しさ、疑問など、一人一人の思いを受け止め、満足感や「次はこうしてみたい」という思いにつなげていく。



② 活動や体験をする

私はここに置いてみる！
僕はこれぐらいの水の量で…！
この入れ物でやってみようかな？
〇〇君みたいにやってみよう！
・自分なりに考えたことを試してみることができるよう、様々な素材や用具を身近に置く。
・友達の様子や考えにも気付けるように投げ掛け、遊びを広げられるようにする。

